

第3次総合計画第4期基本計画第1回総合計画審議会議事録

日 時：令和元年10月17日（木） 14:00 ～ 16:20

場 所：東金市役所3階第1委員会室

出席者：委員…14名

市長、企画政策部長、企画政策部参事(企画課長)、農政課長、商工観光課長、企画課副課長、企画係長、企画課副主査

議題：(1) 地方創生関連交付金事業の効果検証について

(2) 「東金市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の平成30年度における効果検証について

1 開会

(司会 企画課副課長)

2 委嘱状交付

(司会より説明)

新しい委員の方については、時間の都合上、委嘱状を机上に置かせていただいた。今後ともよろしくお願ひしたい。

3 会長挨拶

[会長] 今年度第1回目の会議となる。先ほど新たに委嘱を受けた委員さん7名については、よろしくお願ひする。

今回の会議については、地方創生関連交付金における事業の効果検証と、平成27年9月に策定した「東金市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の平成30年度における効果検証となる。

いずれについても、内容をよく把握していただき皆様から忌憚のないご意見をいただき、活発な審議をお願ひしたい。

4 市長あいさつ

[市長] 平成26年に「まち・ひと・しごと創生法」が制定され、いわゆる地方創生がスタートしたことに伴い、本市においても、国の各種交付金を活用して様々な事業を推進してきた。

この交付金は、それぞれの市町村が事業設計を自由に行うことを可能にするとともに、明確な政策目標の下、客観的な指標の設定やPDCA等の効果検証体制の整備を求めるという新しいタイプの交付金であることから、総合計画審議会の皆様においては、その中間的なチェックおよび効果検証を行う組織としての役割をお願ひしている。

人口の減少傾向は留まるところを知らず、我々地方自治体を取り巻く環境は厳しくなる一方であるが、こうした状況だからこそ、我々行政は危機感を前向きに共有したうえで、“越境する勇気”を持たなければならないと考えている。

「部署と部署との境界」や「市町村間の境界」、「官と民との境界」を越え、広い視点で取組んでいくためにも、本日の審議会においては、幅広い分野からお集まりいただきました委員の皆様から貴重なご意見・ご提案をいただきたい。

－議事の前に－

〔企画課長〕 委員紹介・事務局紹介

《市長、退席》

5 議題

進行は、審議会条例第5条第1項により会長が議長となった。

〔会長〕 まず議題（1）について、事務局より説明を求める。その説明に基づいて、個々の事業の見直すべき点、次年度以降の地方創生のすすめ方等について、意見を伺いたい。

（1） 地方創生関連交付金事業の効果検証について(事務局)

〔企画係長〕 …議題（1）では、地方創生に係る国の交付金を活用して実施した事業について、その効果検証として、皆様の意見をいただければと思う。始めに、新しく委員になられた方もいらっしゃるの、カラー刷りの【補足説明資料】より、改めて地方創生関係交付金の概要を説明させていただく。

人口減少社会を迎えるにあたり、東京への人口の一極集中を是正すべく、平成26年に「まち・ひと・しごと創生法」が制定された。これがいわゆる「地方創生」となる。この地方創生を推進するにあたり、国の各種交付金が用意されている。

資料の一番左、緑色部分の「基礎交付」については、各団体の人口などに応じて交付されたものであり、東金市では約5,000万円の交付を受けた。その横から、緑色の「上乗せ交付」、オレンジ色の「地方創生加速化交付金」、黄色部分の「地方創生推進交付金」、青色の「地方創生拠点整備交付金」と、これら全ての交付金を受けてきた。このうち、「加速化交付金」までは、かかった事業費の100%が国から交付されるものだったが、今回審議いただく黄色・青色部分については、かかった事業費の半分（2分の1）が国から交付され、残りは市の一般財源を用いて実施するものとなっている。先ほど市長も申したように、これらの交付金はいままでの補助金に比べ自由度が高い分、使い終わる都度、内部の評価のみではなく、外部による効果検証を行うことが求められている。

これを受けて今回は昨年度実施した「地方創生推進交付金」を活用した「インターネットメディア局整備事業」及び「地方創生拠点整備交付金」を活用した「6次産業化拠点施設整備事業」の2つについてご意見をいただきたい。

「インターネットメディア局整備事業」

【資料1-1】。この事業は先ほどの【補足説明資料】のうち、黄色部分「地方創生推進交付金」を活用して実施した事業となる。平成30年度までの3年間で、総事業費約2400万円をかけて行った事業であり、このうちの半分に国の交付金が充てられている。

概要としては、民間の方々と協力し、市内にインターネット番組の配信を行う拠点を整備したうえで、様々な分野の方々と番組を持ち寄り、ともに協力して市の魅力を発信していこうというものである。平成30年度は事業の最終年度である3年度目であり、事業費は約400万円で、その半分が国から交付されている。

具体的な使い道は資料中ほど記載の通り、大きく2つに分けられる。

まず1つ目の「番組制作費用等」だが、行政情報や地域情報をわかりやすく伝えるための動画「とう

がねNews」を月1回職員の手作りで作成しており、これを「YouTube」という動画投稿サイトで配信するための費用となる。具体的には撮影した画像にテロップを入れる映像ディレクター及びプロアナウンサーへの委託費用となっている。

参考として、平成30年度に作成した動画の累積再生回数は約10000回となっている。

2つ目の「放送枠買取」であるが、昨年1月に一般社団法人「YassaWave」が開局したインターネットメディア局「YassaWave」の放送枠を買い取り、市独自の番組「モーニングとうがね」を放映するための費用となる。この事業を始めるにあたり数値目標として重要業績評価指標（KPI）を3つ制定した。

例えば、八鶴湖に来ていただいた方に、併せて西口商店街を歩いていただいで、歴史を感じていただくなど、市内を回遊していただくことを狙いとしているため、こういった3つの指標を設定している。事業開始の平成28年度からの3年間で段階的に各指標を上昇させていく計画となっていた。

①「東金駅西口商店街年間売上高」は、平成30年度目標に対し22億1421万円に対し実績21億2090万円であった。

②「広告・情報発信に対して満足と感じる人の割合」について、平成30年度目標40%に対し、実績36.3%であった。

③「東金駅西口周辺1日当たり平均歩行者通行量」について、平成30年度目標982人に対し、実績1,524人であった。

結果、3番目の指標については目標を上回っていたものの、1番目2番目については目標に達しないという結果となった。

これらを受けて事業の内部評価を行った。内閣府より4つの評価段階が示され、いずれに該当するのか報告することとなっており、今回評価を行った。

結論として、本年について、KPI達成状況は思わしくなかったが、「広告・情報発信に対して満足と感じる人の割合」が基準時に比べ大きく増加していることから、3番目「地方創生に効果があった」と評価した。この内部評価について、ご意見をいただきたい。

「6次産業化拠点施設整備事業」

【資料1-2】。

地方創生拠点整備交付金を活用した事業となる。この交付金は推進交付金とは若干異なる趣旨であり、地方創生に資する建物等ハード面を建設するための事業費の半分が交付されるものである。本件については対象となる事業費が8938万2843円であり、その内の2分の1である4469万1420円が交付されている。概要は、「みのりの郷東金」に新たに加工場を整備するものであり、市の基幹産業であり魅力ある緑豊かな自然環境に見合う農業を優先支援することで2次、3次産業に広げ、効果を地域全体に波及させていこうとするものとなっている。

KPIとしては、3点。

①「東金市を訪れる観光客の増加」であり、目標131万人に対し実績132万5000人だった。

②「東金市を訪れた観光客の消費総額」であり、観光入込客数に県が示した消費単価を乗じて算出、目標96億7400万円に対し、実績90億710万円だった。

③「みのりの郷東金における売上高」については、直売場の売り上げのみについて設定したものであり、目標6億500万円に対し実績5億9600万円であった。

これらを受けた内部評価としては、こちらは内閣府から5段階での評価指標が示され、このいずれに該当するかを同じく国に報告する必要がある。

本年については、KPIを達成したのは1番目の指標だけとなるが、事業開始前の基準時より3つの指標全てが向上していることから、内部評価としては3番目「地方創生に効果があった」とした。

こちらについても、ご意見をいただきたい。

以上2つの事業について、委員の皆様からのご意見等をいただきたい。

[会長] 議題(1)に関して、質問を受ける。

[会長] 【資料1-1】「インターネットメディア局整備事業」について、ご意見、ご質問があればお願いしたい。

[委員] 効果検証シートの、KPI②広告・情報発信に対して満足と感じる人の割合について、市民アンケートの結果を使ったとのことだが、このアンケートの回収率や年齢層の集計が出来ていたら伺いたい。

効果検証シートの、KPI③東金駅西口周辺1日当たり平均歩行者通行量について、H30の実績が、例年に比べて突出して良くなっているが、何か特別な要因があったのか。

[企画係長] 市民アンケートは、18歳以上の市民1500名に送付し、592名の回答があった。回収率にして39.5%となり、昨年度より若干上昇した。年齢層については、まだクロス集計前だが、昨年より高めとなった印象がある。

東金駅西口の通行量がH30に突出している件は、調査日を3月31日、桜まつりの日に実施したことが要因となったものである。

[委員] ②について、市民アンケートの年齢層が高い印象とのことだが、「とうがねニュース」や「モーニングとうがね」などは若い世代をターゲットとしているので、市民アンケートに回答したご高齢の方たちは視聴していないのではないかと。視聴していないとすれば市民アンケートでKPIをとること自体適切か。何か他の方法で取る考えはあるか。

③について、桜まつりの日に調査したとのことだが、毎年同じような条件でデータを取らないと信憑性に欠けるのではないかと。なぜ桜まつりの日を選んだのか。

[会長] ③について、基準時918の数値は、東金高校の卒業式の日調査したものである。つまりこの数値の取り方は元々問題があったとも考えられる。H28、H29は平日に調査したが、東金市の「にぎわい」という観点で見たときに、イベント時に調査するのがいいだろうという感覚があったものと思われる。ちなみに、この事業は終了しているものなので、指標の考え方については、今後活かすための意見を出すのがこの場では相応しいかと思う。そのような観点でご意見いただきたい。

②については、まさにその通りで、市民アンケートに回答している世代はインターネットを観ていないことも多いので、もっと年齢層を絞って調査してみてもいいかもしれない。また元々ないものが誕生すれば満足度は上がるが、その後は、あるものへの評価になるので、当然評価は厳しくなるもの。そのような中で、毎年目標を上げることが適切であったかも疑問である。さらには、今回は東金市内の方の満足度だけをみているが、広告・情報発信という点で、市外部の方を対象にしたKPI指標の作成も必要ではないか。

[委員] 数字を追うことが目的ではないが、今回の反省を次回に活かしていただきたい。

今年はミセスジャパンのイベント等、市外に対しても多く発信できたと思う。まだこのメディア局のことを知らない方もいると思うので、今後も広報・周知していただきたい。

[委員] 基準時の数値はどのように設定したのか。また、本件は市外の人への発信が重要と考えられるが、なぜ市民の満足度を KPI に入れたのか。今後変えていくにしても、今までの考え方を聞きしたい。

当番組は良く観るが、市民からみてもどのような人を対象にして製作しているのか分からない。市はどのようなスタンスで委託しているのかお聞きしたい。

[企画課長] 基準の定め方については、当時地方創生の取り組みが始まって間もない中で、それまであった指標のいくつかを検証して設定したものである。

[商工観光課長] 「モーニングとうがね」については、市の情報をインターネットを通して更に広めていくことを目的に、ヤッサウェブの30分の番組枠を買い取ったものである。内容としては、市の観光資源や広報紙掲載内容を紹介するもので、再放送含め年230回ほど放送したものである。

[委員] 今言っても仕方がないが、やはり KPI の設定が甘かったのではないか。西口の歩行者数に高校生を入れても買物客という点で見れば、正確な数値はとれない。

地方創生に多少なりとも効果があったと思うが、市が何を持って活性化に繋げていくかが全く分からない。お金が出るからやったというようにしか見えない気がする。これから進めるにあたってはきちんとした指標が必要で、西口だけでなく東口も含めた指標にする必要があるとも思うが、その辺のことを市としてどう考えているのか伺いたい。

[企画課長] 指標の取り方など、ご指摘いただいたことを踏まえて今後は作成していく。

[委員] 総論の話になるが、地方創生とは、国の基本方針に沿って取り組むものである。今回の案件については全て専決事項だった。八鶴湖の栈橋も、みのりの加工場も個人的には全て反対だった。また、当会議は審議会だが、内容は評価委員会と考えられるので、もっと突っ込んだ議論をすべきである。当局は地方創生をどのように捉えていたのか伺いたい。

[企画課長] 審議会のあり方については、元々この総合計画審議会は、東金市総合計画を審議するために立ち上がったものである。地方創生の取り組みについては、学識経験者等を含むメンバーでの評価が求められており、そのメンバー構成が当審議会委員と重なるところが多いことから、新しく委員会を立ち上げるのではなく、当審議会内において、地方創生の取り組みを評価をしていただいているところである。また、地方創生総合戦略は、総合計画の中の人口減少問題を取り出したものであり、総合計画の一部とも考えられることから、当審議会にて評価をお願いしているところである。

[委員] 市は組織の多様化を図り、人材登用の制度を確立して、地方創生に取り組まないと対応できな

いのではないか。半額は自己負担であり、本件は組織が成熟していないうちに、お金が入ってきてしまったから使っただけではないのか。また、アンケートについて議論しているが、今更このような議論をしていること自体がおかしいのではないか。人口減少社会の中でいかに東金市に足を運んでもらうかを議論すべきではないか。

〔企画課長〕 市役所内の体制が不十分で、制度についていけないとのご指摘だが、当時制度が早足に進んでいく中で、迅速に対応できなかったところもあったと思うので、ご指摘いただいたことを今後活かしていく。

〔委員〕 今回、全て基準値から目標値を定めているが、ほとんど達成できていない。これはまずいのではないか。目標も基準の取り方も間違っており、ただ交付金に飛びついただけといわざるを得ない。きちっとした計画を作ってから予算要求すべきではないのか。基準と目標をしっかりとものにできなければ、交付金は使う必要はないと思う。単費が入ることを意識しなければならない。他市には、動画の編集や撮影を市独自でやっているところもあるのではないか。

〔企画課長〕 他団体の状況は手元にないが、見栄えのするコンテンツを作成するためには、やはりプロの技術、機材が必要との考えから委託する形をとっている。

〔委員〕 プロの作るものではなく、東金の人間が作成することに意味がある。専門家が作成したところで話題になるか。見方によっては、専門家が作るものより、東金市民、職員が作ったほうがずっと価値があるとみることできる。

当審議会では、今までやってきたことの評価をするのか、東金市の地方創生の今後について議論するのか、そこを今一度整理したい。

〔会長〕 地方創生交付金を受けるにあたって、国から評価を求められているので、その評価を示すのがマスト。インターネットメディア局整備事業については、KPI 3本のうち、③が目標を達成しており、内部評価「地方創生に効果があった」とされているものに対して、当会でどのように評価するかというところ。その他、今回の案件含め今後の創生事業の運用について考える場としている。

〔委員〕 このメディア局事業については、近隣にはない取組みであり、県内外問わず、全国からアクセスできるのでとても良い取組みである。KPI の取り方に問題はあるが、事業としては進めていってほしいものである。

〔委員〕 この事業は、今後国からの交付金がなくなっても続けていくのか。

〔会長〕 今回は評価の場としているので、続けることに期待はするとしても、続けるか続けないかの議論は避けたい。

〔会長〕 続いて【資料1-2】「6次産業化拠点施設整備事業」について、ご意見、ご質問があればお願いしたい。

[委員] KPI①東金市を訪れる観光客の増加とあるが、東金市のどこに魅力を感じて、どこに多くの観光客が訪れているのかお聞きしたい。また、実績はどのように取ったのかも併せて伺いたい。

[商工観光課長] 実績は観光入込客数というもので取っている。具体的には、みのりの郷の来客数や、桜まつり、やっさフェスティバルなどのイベント来場者数を、1年間積み上げたものとなっている。ちなみに、一番多いのが「みのりの郷」の来場者数、次点で「みきの湯」となっており、その他、ぶどう郷の来場者数等を含めている。

[委員] 観光入込客数には、ゴルフ場や宿泊施設なども含まれるのではないか。みのりの郷やイベントだけではここまで数字は伸びない。その他施設についても、主要なところの実績を伺いたい。

[商工観光課長] 観光入込客数の統計対象施設は、「みのりの郷東金」「新千葉カントリークラブ」「東千葉カントリークラブ」「エストーレホテル（宿泊客除く）」「ぶどう郷」「みきの湯」、対象イベントでは「桜まつり」「やっさフェスティバル」「産業祭」となっている。

[委員] 青年の家の宿泊者数は入っていないのか。

[商工観光課長] 観光入込客数は、宿泊客を除いてカウントしている。宿泊客を対象としたデータは別で取っている。

[委員] KPI③H30売上高実績596百万円は、目標には届かなかったが、素晴らしい数字だと思う。この実績値に植木は含まれているか。

[農政課長] みのりの郷東金は、直売所のほか、レストラン、圃場等あるが、今回の実績値は直売所のみのものである。

[会長] 基準値の505百万円も直売所のみのものであるか。

[農政課長] 直売所のみのものである。

[会長] ③の目標値が年々増加し、最終的に662百万円を目標としているが、駐車場にも限りがあるし、現状の面積では厳しいと思うが、何か考えがあるのか。

[農政課長] H30までは直売所のみのものであるが、R1からは加工場稼働による売上アップも見込んだ目標値としている。市内道の駅も29駅あり、今後は差別化を図っていかなければと考えている。販路も拡大していく。現在の取組みは、加工場で作った米粉を市内小中学校の給食で利用しているほか、今年度新たに東千葉メディカルセンターと契約し、直売所の野菜、果物を卸し、社食や病院食で利用している。このような取組みにより、目標値を目指していく。

[委員] みのりの郷拡大はいいが、それにより閉店に追い込まれる店がある。そういう情報を把握しているか。

〔農政課長〕 6次産業化拠点施設を作った目的の一つに、一次産業だけではなく、二次、三次と付加価値を付けることにより、農家の方の所得を上げる目的がある。そのような中で、単に売上をあげることで、委員指摘のようなことが起こっているとすれば本末転倒なので、状況確認したい。

〔会長〕 他になければ、当審議会としての評価に移りたい。今回の2案件について、内部評価は「③地方創生に効果があった」とのことだがいかがか。特に異論なければ、当審議会の結論として、内部評価「③地方創生に効果があった」という評価は妥当としてよろしいか。

《異議なし》

〔会長〕 それでは、当審議会結論は妥当であるとするが、今回指摘のあった指標の取り方等については次に活かしていただきたい。

(2) 「東金市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の平成30年度における効果検証について(事務局)

〔企画係長〕 …議題2として「東金市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の平成30年度の効果検証である。30年度の実績の説明に先立ち、まず総合戦略とは何か、について改めて簡単に説明させていただく。資料(「東金市版人口ビジョン及び総合戦略(九十九里地域広域連携)の概要」)参照。

総合戦略は、少子化などにより日本の人口は減少傾向にあり、本市においても例外ではない。国の研究機関によると、2060年には本市は約34,000人まで減少するとされている。さらに高齢化により高齢者の人口が現役世代を上回り、今までと同じような行政サービス、社会保障制度が維持できなくなることが想定される。市としては2060年に人口約50,000人を維持すること、さらにはバランスの良い世代構成を維持することを目標として平成27年度から31年度までの5年間で力を入れてやるべきことをまとめたものが「総合戦略」である。

この戦略では、人口の維持に向けて、「げんきづくり」、「みらいづくり」、「まちづくり」、「しごとづくり」、「きずなづくり」の5つの点からアプローチを行い、それぞれ達成するためには何をすれば良いのかを具体的にまとめている。また、言葉だけの目標や施策だけでは進捗状況や達成度が分かりにくいいため、細かな数字で見える目標を設定し、それらの数値がどう変化していくのかを追っていくことで、この戦略がどこまで進んでいるのかを計るものとしている。その数値を抜粋して作成したものが資料2「東金市まち・ひと・しごと創生総合戦略 平成30年度における効果検証」となる。これらの数値の推移などから、今後改善すべき点や、普段お気づきの点などについて、ご意見をいただきたいと考えている。

それでは資料2について。

まず、(1) げんきづくり for VITALIZATION

魅力ある町をPRすることにより人を呼び込もうとするものである。その進捗状況を把握するため数値目標をそれぞれ設定している。表の一番左の数値が総合戦略策定以前の数値である基準値となり、実績として平成27年度から30年度の実績値を記している。進捗状況ということで、これまでの実績を踏まえて「S」から「D」までの5段階評価を、それぞれの項目で記載しているので目安としていただきたい。それぞれの評価の基準については、資料の一番後ろのページに記載している。「S」目標以上を達成。「A」概ね目標を達成。「B」目標達成に向け順調に推移。「C」やや目標達成困難。「D」目標達成困難とされている。

1ページに戻っていただいて、例えば、①基本目標の最初の項目「人口の社会増」については、総合戦略策定以前の基準値は年間マイナス198人、一番右の目標値として100人を掲げているが、平成30年度の実績値としてはマイナス350人ということで、進捗状況としては、やや目標達成困難として「C」としている。対照的に2つ下の項目「観光入込客数の増加」については、基準値72万人、目標値100万人に対して、平成30年度実績で1,325,095人ということで、目標以上を達成したとして「S」としている。

これらの数値を受け、次のページ、本項目「(1)げんきづくり」についての内部評価を記載している。こちらにも内閣府から示された評価方法を参考に「S」から「D」の5段階評価を行っている。観光入込客数や移住定住ホームページのアクセス件数など、現時点で目標を上回るものがある一方、人口の社会増のように数値が大幅に悪化して目標達成が難しくなっている項目も多数でていることから全体としては評価「C」とした。「みよりの郷東金」により観光客数を確保し結果が出ている一方で、低い数値を示しているものがあるというのが現状である。主な施策としては、特に城西国際大学との連携強化として、学生消防団制度の制定や東金市オリジナル体操、ロコモ体操の作成を行ったことが挙げられる。

(2) みらいづくり for NEXT GENERATION

これは、子育てしやすい環境を整えることで少子高齢化に歯止めをかけようとする視点である。真ん中の表「保育所の待機児童数」については、基準値6人、目標値0人に対して平成30年度実績で3人ということで「B」評価しているが、今年度に民間保育所が新設されたことから、今後、目標達成が見込める一方で、一番下の表の上から2番目と3番目の項目「婚活支援事業の参加人数」「婚活支援事業により結婚に結びついた組数」などの出会いに関する目標については達成が困難となっている。資料記載の数値を受け、次ページの「(2)みらいづくり」全体の内部評価は「B」とした。この分野で実施した主な事業については、特に、妊娠から子育てまで切れ目のない支援体制を整備するために健康増進課と子育て支援課で連携した「子育て世代包括支援センター」を開設したことが挙げられる。

(3) まちづくり for COMFORTABLE CITY

これは住みやすいまちをつくり、人が安心して集い、暮らせるようにしたいという視点である。こちらは、一番下の表の「交通事故発生件数」や「犯罪認知件数」では目標を達成しているが、上から2番目の表「高速バス本数」や「JR東金駅の一日平均利用者数」については、目標達成が難しくなっている。資料記載の数値を受けて、全体として内部評価「B」とした。その他の主な施策については資料記載のとおり。

(4) しごとづくり for JOB CREATION

地域に雇用を創出し、働きやすい環境を整えることで、本市に居を構えてもらうことを狙いとしている。こちらは一番下の表で「介護サービス施設数」は目標値の18施設を達成している一方で、一番上の表で「市内事業所数の増加」や「市内事業所事業者数の増加」について、これまで増加傾向であったものが平成30年度では微減となっており、目標達成が難しい状況となってきている。次ページの全体での内部評価としては「B」とした。主な施策としては、看護師養成就学資金貸付制度により、東千葉メディカルセンターの看護師確保に寄与できているのではないかと考えている。

(5) きずなづくり for FRIENDSHIP

これは周辺地域と連携して地域全体の利便性を高め、人を呼び込もうという視点である。こちらは、一番下の表「有効都市との交流者数」や「移住定住ホームページへのアクセス件数」は目標達成している一方、市民へのアピールに欠けているためか、「地域間連携が進んでいる」と感じる市民割合が低い水準で推移している。そのため、全体での内部評価としては「B」とした。他の施策については資

料記載のとおり。

以上が概要説明。委員の皆様から意見を頂戴したい。

[会長] はじめに、皆様から意見を伺う前に、総合計画と総合戦略の違いについて説明いただきたい。総合計画は20年計画、そして今、第4期基本計画が平成28年から令和2年までとなっている。それと並行する形で、総合戦略が平成27年から令和元年までの5ヵ年計画であって、総合計画の中の、地方創生、人口対策の部分がここに謳われていると認識している。総合計画の末が令和2年度、総合戦略の末が令和元年度とずれがあるところの取扱いや、総合戦略の計画期間終了後どうするのか等、市の考えを踏まえて皆さんに意見をいただきたいと思っているので、現状と今後の見通しについてお聞きしたい。

[企画課長] 現行の総合計画が令和2年度で終わり、次期は令和3年度から令和12年度までの10年計画で考え、策定を進めているところである。総合戦略については、令和元年度で終了となり、総合計画の末と1年のずれが生じるが、この取扱いについては、現在企画課内で協議しているところである。国の考えとして、現行の総合戦略を1年延長し、次期総合計画基本計画期間と合わせることにについては問題ないとする方向で考えていることから、市としても総合戦略を1年延長し、次の基本計画の期間に合わせる方向で、企画課内では調整している。

[会長] では、その辺も踏まえ、議題(2)について順番にご意見をいただきたい。

[委員] 観光等のPRが弱いと感じる。東金市のシンボリックな存在は色々あるが、PRができていない。何か斬新な方法はないものか。東金アリーナに大相撲が来たときも、市内在住者でも知らなかった人が多かったように思う。改善が必要。

移住定住施策について、ホームページアクセス数など出ているが、この取組みによって移動してきた人がどの程度いるのか把握しているか。また、移住者に対して東金市のPRはしているか。

東千葉メディカルセンターは今後どうなっていくのか。答えられる範囲でお答えいただきたい。

[商工観光課長] これまでの観光PRはターゲットを絞らずに漠然とやっていた部分がある。今その部分を改善していこうと検討しているところである。また、ご意見いただいた斬新な方法についても今後検討していきたい。

[企画課長] 社会増減としては、毎月0.1%から0.3%程度の割合で減少している。ちなみに、少子化も進んでおり、0歳児人口は310人まで減少している状況。社会増減、自然増減でみても、全体的に減少している。

[企画政策部長] 昨年度、千葉県より追加財政支援として30億円が投入された。しかし、看護師の確保など問題もあり、まだフルオープン出来ていない。このような状況を打開するためにも、内部の経営健全化会議や、近隣自治体との財政支援を含めた連携の働きかけを千葉県に依頼するなどしているところである。財務諸表上は30億投入もあり黒字になっているが、実際はまだ赤字構造があるので、その辺をどうするか。またフルオープンに向けてどうするかなど、今

後も健全化会議、千葉県、設立団体全体で検討していく。

[会長] PR に関しては市全体のことなので、例えば企画課で市全体の戦略会議を開くなどすれば、各課の役割もしっかりできて、効果的なものが生まれるのではないかと。今後検討していただきたい。特定の課だけでなく、市全体として考えたほうがいい。

[委員] 東金市の情報を YouTube で流していることを初めて知ったが、例えば番組の最後で市内店舗のクーポン券ダウンロード等を行えば、閲覧数も増えるのではないかと。

[商工観光課長] YouTube ではないが、ヤッサウェブの「モーニングとうがね」の中で、視聴者プレゼント企画を実施したことはある。その時は全く反応がなかった。インターネットは誰でも観られるが、あまり観られていないというのが昨年 1 年間の印象である。

[委員] (3) まちづくり「防災施策に関する市民満足度の向上」や「公園・緑地施策に関する市民満足度」の目標値はもっと高くした方がいい。今回の台風による公園の清掃やベンチの修繕など、市に依頼してもいつになるか分からないので、日吉台西区は住民のみで行った。これからは地区と市とが協働して行っていかなければならない。そのためにも、目標値はもっと高くしてほしい。

今回の台風で、防災倉庫の管理ができていないことに気がついた。この辺は行政では手が回らないので、地域の防災会などが定期的に点検するなどし、管理すべきとも思う。このような視点もまちづくりに入れてはどうか。

[企画課長] 今回の災害では区長会の皆さんには多大なるご協力をいただき感謝する。また、いただいた意見は消防防災課にも共有する。地域の公共物の管理についても、内部で考えていきたい。

[委員] 新計画を策定する際は、言葉を慎重に選んでいくべき。過日の地区懇談会では、「お年寄りが多くなると困ることがある」との発言があった。皆日々体操を行うなど健康維持に努め、場合によっては力になりたいと思っている。このような発言を聞くと、非常に悲しくなる。

[企画課長] 税収の説明の中で、そのような発言があった。気持ちの上では、決してそのような思いはないが、今後は反省し、誤解のないようにしていきたい。

[委員] 観光 PR については、これまでも東京や木更津アウトレットでのチラシ配布、ケーブルテレビや YouTube での紹介など様々行ってきた。インターネットのみでもそれほど効果はなく、これからは PR の多様化、例えば、市の様々なイベント時に観光 PR を行っていくなど、内外部団体と連携しながら多方面に PR していきたい。

[企画課長] 連携については、これからは観光はもちろん、様々な分野で必要となっている。総合計画の策定にあたり、地区との懇談会、市民アンケート、公募の市民会議など行っているが、その中でも、これからの人口減少社会を乗り切るには、異業種との連携が必要との意見が多くでている。次期総合計画の中でも、連携は 1 つの重要なキーワードとしていきたい。

[委員] 総括で、何が出来て、何が出来なかったのかを精査し、反省して、必要なものは再挑戦していかないと、実りあるものにならない。近年は、商店を閉める方が増加するなか、後継者を探すことも1つの有効な手段ではないか。ハウスをサラリーマンが後継として行っている例もあるが、このような例を増やしていくことが必要である。そのような意味で、市、その他関係団体との協働、連携には賛成である。

[企画課長] 郊外型の大型店舗が増えているが、人口減少社会をむかえるにあたっては、このスタイルは成り立たなくなっていくことも想定される。今後は、元々の商店の形が重要になってくるとも考えられる。今後のまちづくりにおいては、関係団体との協働、連携は大事にしたい。

[委員] 計画は作れど、実行は難しいもの。各団体が協力して良いまちをつくっていききたい。これからも農業委員として尽力し、まちを良くするために協力を仰ぐこともあると思うので、よろしくお願ひしたい。

[農政課長] 農業については、後継者不足等厳しい環境にある。県と連携し新規就農者支援等も行っているが、今後も県と連携し、こういった成功事例を増やしていきたい。

[委員] 人口減少社会でできることは限られている。生き残りを考えると人口をどう増やすかを考えるべき。東金にはまだ高校、大学がある。他市から東金の高校に通う学生、大学には全国から集まる学生、また21カ国から集まる留学生がいる。とても恵まれているが、人口減少社会では今後どうなるかは不透明であり、数年の間にこれらの学生をどう定着させるのかを考えねばならない。計画は総花になりがちだが、1点だけでも近隣市に負けない施策を重点的にやっていく必要がある。

[企画課長] 外から人を呼び込むよりも、東金を知った人が出て行かない、定着する施策の方が、人口を維持していく上で近道かと思う。暮らしやすいまち、働きやすいまちづくりをもう一度見直す時期に来ている。

[委員] 市民と大学等教育機関の連携を強化したい。現状、窓口も不明確で分かりにくい。若者が少なく、学生がいないと祭りも成り立たなくなりつつあり、連携のバランスをとっていく仕組みが必要。

移住定住について、9万件以上のアクセスがあり、少なからず東金市に興味を示していることが分かる。この方たちへのその後のフォローができる仕組みが必要。

成田空港の活用の観点が今後は必要である。機能強化により、10年以内に3万人以上の雇用が生まれることが想定され、市の活性化にも繋げたい。

[企画課長] 大学連携窓口は昨年度から一義的には企画課としている。移住定住ホームページ閲覧者の今後のフォロー等マーケティングについても今後取り入れていかなければならない観点と考えている。成田空港の活用についても、新たに滑走路が整備され、雇用が生まれることも認識している。千葉県内のインバウンド観光需要も多く、今後も成田空港の活用については視点の一つとして考えていきたい。

[委員] 大学連携では、国際交流の分野でも、留学生とハイキングやパーティを毎年実施し、交流を深めている。新規事業の数についての指標だけみると、何も交流していないように見えるが、長い年月をかけて様々な交流をしてきている。指標をとる際もそこに目を向けていきたい。

各教育機関に在籍する外国人においても、日本語ができない子や技能実習生が生活に困る場面が多くある。こういった現場の声にもっと耳を傾けることが重要である。

[企画課長] 学生等若い力が活力を生むと考えるので、教育の大切さを今まで以上に理解し、力を入れていきたい。

[委員] 総合計画策定に係るワーキンググループの意見を、完成してからではなく、早いうちに出してほしい。メンバーの中には、若者や様々な職種の方々が多くいるので、早いうちに意見を聞いて取り入れていきたい。

東金には教育機関が多く存在する。知識豊富な大学の力を使わないのはもったいない。東金は恵まれている。また、留学生も多く、他と比べて外国人と接する機会が多くあることも恵まれており、もっと活用すべき。

データ分析は細かくすべき。転入者のデータを見ても、年齢層、どこから多く転入しているのか、数値に留学生や警察学校の学生は含まれるのか等、細かく調査し、分析すべきである。

東金に入ってくる学生を、東金に留まらせることも大事だが、東金から出て行って、戻ってこないことも問題である。愛着を持ち、歴史のある故郷に戻って就職したいと思わせるまちづくりをする必要がある。

[企画課長] ワーキンググループは公募で募った19名の方が、東金の魅力づくり、将来への提言について、年内答申を目標に議論している。議論の中で出た意見は示していきたい。

教育機関が多いことは、近隣市にない東金市の魅力である。これからも連携を築きながら進めていきたい。

データ分析については、今年夏ごろから市民課窓口において、転入転出者アンケートを実施しており、今後も多方面のデータを収集し、分析を進めていきたい。

[委員] 本日は様々な意見が出たが、これに対応するには組織の強化が必要である。人材の多様化、管理職がいかに柔軟な発想のできる若手を育成できるか、そういう環境づくりがまず必要。常識に囚われない働き方をすれば、まだ十分地方創生に対応できる。

[企画政策部長] 総合計画策定にあたっては、若手職員のプロジェクトチームを立ち上げ意見を出している。今後も総合計画に限らず、若手を起用し、活性化を図っていきたい。

[会長] 一通り意見をいただいたが、その他に意見はあるか。今後気づいた点があるようであれば、事務局に寄せていただきたい。また今回出た意見を事務局には是非役立てていただきたい。

《議事終了》

6 その他

[企画課副課長] 最後に事務連絡として、マイナンバーをまだ提出いただいてない委員の皆様には、今後ご案内させていただくのでご承知おきいただきたい。

7. 閉会

以上